

国立歴史民俗博物館総合展示 第1室(先史・古代)の新構築事業 2018年度～2019年度活動報告

Annual Report on NMJH Permanent Exhibition Renovation Project of Gallery 1
Prehistoric and Early Japan (FY2018-2019)

KAMI Naomi and YOKOTA Ayumi

上 奈穂美・横田あゆみ

はじめに

国立歴史民俗博物館では、2002年に策定した「総合展示リニューアル基本計画」[大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館 2004]に基づいて、各展示室のリニューアルに順次着手しており、開館以来の第Ⅰ期展示に対してリニューアル後を第Ⅱ期展示と呼称している。開館30年となる2013年3月にリニューアルを終えて開室した第4展示室(民俗)に続き、第1展示室(先史・古代)でも7年間のリニューアルを行い、第Ⅰ期展示から36年を経て、2019年3月19日に開室した。

総合展示第1室新構築事業(以下、第1室リニューアルと表記)は、2012年に館内外の展示プロジェクト委員(表1(所属と役職は2020年4月時点のもの))によって組織されるリニューアル委員会の発足以降、第Ⅱ期展示の準備を開始した。表2には、第1室リニューアルに関する主な活動内容を時系列に沿ってまとめた。

ここでは、前稿[渋谷2014、渋谷・大塚2015、渋谷・上2016、2017、上・横田2018、横田・上2018、横田・上2020]と同様に、2019年度を中心とした活動概要と約7年間のリニューアル活動を報告し、第Ⅰ期と第Ⅱ期展示の展示構成の違いを概観したい。

表1 展示プロジェクト委員

館内委員		館外委員			
上野 祥史	本館研究部	准教授	小畑 弘己	熊本大学文学部	教授
小倉 慈司	同上	准教授	亀田 修一	岡山理科大学総合情報学部	教授
工藤 雄一郎	同上	客員研究員	川尻 秋生	早稲田大学文学学術院	教授
	学習院女子大学	准教授			
	国際文化交流学部日本文化学科		設楽博己	東京大学文学部・大学院人文社会系研究科	教授
鈴木 卓治	本館研究部	准教授			
高田 貫太	同上	准教授	瀬口 眞司	公益財団法人滋賀県文化財保護協会 企画調整課	副主幹
西谷 大	同上	教授	谷口 康浩	國學院大學大学院文学研究科	教授
仁藤 敦史	同上	教授	堤 隆	浅間縄文ミュージアム	主任学芸員
林部 均	同上	教授	菱田 哲郎	京都府立大学文学部	教授
藤尾 慎一郎	同上	教授	森 公章	東洋大学文学部	教授
松木 武彦	同上	教授	吉田 広	愛媛大学ミュージアム	准教授
三上 喜孝	同上	准教授	若狭 徹	明治大学文学部史学地理学科考古学専攻	准教授
村木 二郎	同上	准教授	若林 邦彦	同志社大学歴史資料館	准教授
山田 康弘	同上	教授			
渋谷 綾子	同上 特任助教(当時, 2012~2015年度) 東京大学史料編纂所 特任助教				
大塚 宣昭	同上 機関研究員(当時, 2013年度) 札幌学院大学人文学部人間科学科 講師				

表2 第1室リニューアル関連年表

1983		国立歴史民俗博物館 開館(3月) 第I期展示公開		
1984		「沖ノ島」公開(3月)		
1988		「日本文化のあけぼの」 拡充(3月)		
1994		第II期展示 計画策定		
1996	暫定改善	暫定改善(1996年3月~1997年3月)		
1997				
2004	第I期展示	「総合展示リニューアル基本計画」策定		
2011		設計構想	活動準備	
2012			リニューアル委員決定 展示構成案の検討	大型模型, 複製資料の製作調整に着手
2013		設計	館内での基本設計確定	各種予算の検討を経て, 開室時期を2016年度・ 2017年度から2018年度に延長 長期借用の調整に着手 展示テーマ案, 配置図, 資料の検討
2014			プロポーザル 詳細設計	実施設計作成業者決定((株)日展) 日展との打ち合わせを重ねる
2015			実施設計図(詳細設計)完成 費用の再検討(先送り計画)	一部未完成のままの開室を決定
2016	閉室	施工	閉室(2016年5月9日), 資料の撤収 入札 施工に向けた設計内容の確認	施工業者決定((株)乃村工芸社) 乃村工芸社との打ち合わせを重ねる 寄附金募集に着手
2017			展示室工事 展示準備, 展示物製作 タイトル変更(「先史・古代」へ) 展示構成の館内縦覧	大型模型移設, 新規壁面設置など グラフィック, 映像コンテンツ, ネームプレートなど
2018			資料の借用 解説グラフィックの検収	2018年7月までの予定だった工期を延長。 館内作業の遅れにより, グラフィックの納品を はじめ大幅に作業がにずれ込んだ
2019	開室	調整 演示	演示作業 開室(2019年3月19日)	

リニューアル活動

1. 2018年度末～2019年度の活動概要

2018年度分については、開室直前の一月分を除いて既に報告しており〔横田・上 2020〕、ここでは2018年度末のその一月分と2019年度分の活動を併せて報告する。2018年度末、開室の約一月前までには未了分の解説グラフィックパネルの修正と設置、および資料の演示をほぼ終えていた。3月上旬には照明の調整まで完了したものの、ネームプレートの納品が校正遅延により大幅に遅れ3月12日(金)のマスコミ発表に間に合わず、一旦仮プレートを配置した後、内覧会直前に本プレートへの交換となった。映像コンテンツもまた制作期間の大幅なずれ込みによって内覧会直前に納品となり、開室前一週間は綱渡りのような最終調整が続いた。しかし、館内外の方々のご助力により、3月18日(月)までに予定した作業を完了し、式典と内覧および翌19日(火)の開室に漕ぎつくことができた。また、特集展示コーナーでは、開室と同日にクラウドファンディングによって製作再開が実現した正倉院文書の複製を公開し、5月12日に会期を終えた。

2019年度には、これらの開室・公開に関連し来館者を対象とした催しを多く企画し、各展示担当者が展示を紹介する「第1展示室リニューアル記念講演会」を6回、1室リニューアルを総合的に解説する「歴博フォーラム」を1回、いずれも館内の講堂で開催した。また、4月9日には館内リニューアル委員会議を開き、開室後の展示批評や助言、開室に関連する報道などについて、改善の必要箇所や期間などを検討した。未着手分の映像コンテンツについても年度内完成を目指すことにした。6月14日には全体会議を開き、開室後の展示場や展示批評への対応などを確認した。更に、前年度からの持ち越し分となった解説グラフィックパネルの訂正についての打ち合わせを行い、随時改訂を進めている。

この他、リニューアル事業報告書『第1展示室(先史・古代)ができるまで』(仮称)の作成を進めており、これまでの活動内容やデータベースを用いた展示資料や写真、解説グラフィックの使用画像や解説文などのリストなどを中心にまとめ、2020年度末の刊行を予定している。

これまでのリニューアル活動で時間と労力を要したものの1つは、展示構成物の管理であった。表3には資料の、表4には解説グラフィックパネルや映像コンテンツなどで扱う画像などの、それぞれの大まかな管理の流れについて示す。データベースの構築・運用によって各展示構成の追加更新を円滑に行うことが可能となり、各所で発生していた遅滞を大幅に解消することができた。とりわけ煩雑な作業の大部分が軽減され、収蔵から演示に至る資料の流れや、使用画像の使用・保管状況などの把握が格段に容易となった。データベースの運用により解説グラフィックや映像コンテンツ作成時に業者への入稿が滞りなく進められ、資料の演示の際にも展示位置や展示方法を明示でき、展示場とバックヤード間の往復も必要最小限に抑えられ、期限の迫る中で演示期間の短縮へつながった。

表3 展示構成物の管理（資料）

資料種	導入法	撤収後の状態 (仮収蔵庫)	収集 (製作・購入・借用)	➡	燻蒸 + 保管 (本収蔵庫)	➡	燻蒸 + 保管 (仮収蔵庫)	➡	演示
第Ⅰ期展示	館蔵 (第Ⅰ期)	再展示	-		○		-		○
		保管	-		○		-		-
	借用 (継続)	再展示	-		○		-		○
		返却	-		-		○		-
第Ⅱ期展示	館蔵 (新規)	展示	○		-		○		○
	借用 (新規)	展示	○		-		○		○

表4 展示構成物の管理（画像ほか）

資料種	導入法	制作 / 撮影	➡	許諾申請・受取り (データ/ネガ)	➡	グラフィックパネル / デジタルコンテンツ			
						入稿	➡	編集・校正	➡
画像 / イラスト / 映像	館蔵 (第Ⅰ期)	-		○		○		○	○
	館蔵 (新規)	○		○		○		○	○
	借用	-		○		○		○	○

2. 展示構成の変化

1. リニューアル後の展示（第Ⅱ期展示）と第Ⅰ期展示

2019年3月にオープンした第Ⅱ期展示は、新聞や雑誌などに取り上げられたほか、専門家からの展示批評も受けている（表6・表7）。来館者からの指摘内容もあわせて修正内容を検討し、展示に反映させる作業を続けている。ここでは、展示制作者側の視点から展示を評価する試みとして、同展示の資料やネームプレート（資料キャプション。以下NPと略す）、パネル、デジタルコンテンツの数といった展示構成に関するデータを集計し、それぞれの数値をもとに展示の特徴を読み解いてみたい。具体的には、第Ⅰ期・第Ⅱ期展示それぞれのデータをまとめたうえで、両者の床面積当たりの数値を比較し、どのような傾向が導けるかを試みる。

なお、第1室の床面積は、公式の数値が不明であるため、第Ⅱ期展示の基本設計図をもとに概数で割り出した。全体を1661㎡とし、その中で各テーマが占める割合を（ ）内に示した。

(1) 第Ⅰ期展示の構成

第Ⅰ期展示は、1983年の歴博開館以降、内容の拡充と更新を繰り返しながら2016年の閉室まで公開された。2016年5月の閉室前を基準に集計したテーマごとの数値は表5-1-1に、平面図は図1-1に示した。

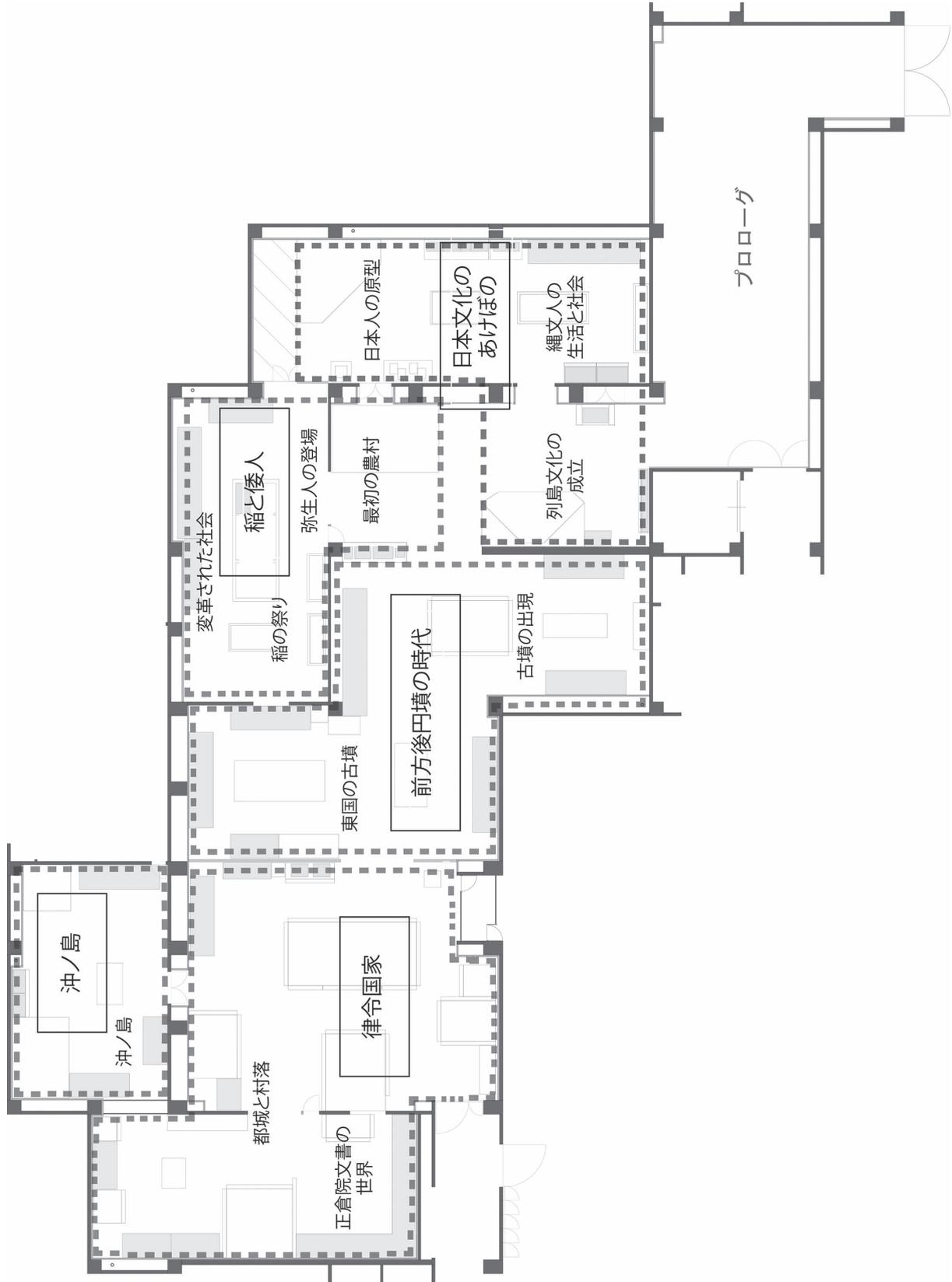


図 1-1 展示平面図 (第 I 期)

表5-1-1 第I期展示の構成

		資料(件)	N P	パネル	デジタル	第II期との対応
第I期	プロローグ	0	0	3	0	ブ
A	日本文化のあけぼの	408	227	49	7	
	列島文化の成立					
	石器群の変遷	94	47	5	0	I
	縄文時代の始まり	32	12	2	0	I
	縄文土器の地域色	56	0	2	0	I
	石器を作る技術	24	23	6	1	I
	アジアの中の縄文文化	1	1	2	0	I
	縄文人の生活と社会					
	縄文時代の村	4	3	3	0	II
	縄文人の生活	84	44	2	0	II
	漆の文化	14	19	3	0	II
	仮面の祭り	32	16	4	0	II
	縄文人の一生	33	21	4	0	II
	縄文人のむら	0	5	3	3	II
	縄文人の家族	1	0	2	0	II
	日本人の原型	31	36	9	3	II
	旧石器人と縄文人	2	0	2	0	I
	その他	2	0	2	0	I
B	稲と倭人	172	178	55	3	
	最初の農村					
	守りをかためた村	0	0	1	0	III
	弥生人の食料	0	9	2	0	III
	高床の倉	6	0	1	0	III
	弥生人の登場					
	弥生人の道具	46	49	12	0	IV
	弥生人の特徴	6	6	5	0	III
	アジアの中の弥生文化	4	3	3	0	III
	弥生時代の始まり	27	35	2	0	III
	変革された社会	33	39	5	0	III
	農耕文化の広がり	20	10	7	1	III
	稲の祭り					
	青銅祭器の分布	11	0	1	2	III
	境界の鎮め	0	11	2	0	III
	祭器の肥大化	1	0	2	0	III
	銅鐸絵画の世界	11	9	4	0	III
	西日本の祭り	7	7	3	0	III
	東日本の祭り	0	0	5	0	III
	その他	0	0	5	0	III
C	前方後円墳の時代	397	235	91	4	
	古墳の出現					
	古墳に副葬された鏡	49	50	12	0	IV
	東アジアにおける日本の古墳	2	1	13	0	IV
	古墳出現前夜	59	49	9	0	I
	前方後円墳の成立	5	3	5	0	I
	古墳の分布の拡大	77	29	7	0	I
	東国の古墳					
	東国の大型前方後円墳	73	29	9	0	V
	日本語表記の始まり	3	4	4	1	V
	稲荷山鉄剣	65	40	7	3	V
	古墳時代のムラと豪族居館	2	2	3	0	V
	東国の人物埴輪	8	6	7	0	V
	東国の後期古墳	10	0	1	0	V
	後期の前方後円墳	0	13	6	0	V
	古墳の終末	42	8	2	0	V
	宝塔山古墳	1	1	3	0	V
	その他	1	0	3	0	V
D	律令国家	258	177	131	0	
	都城と村落					
	建設の技術	8	5	9	0	VI
	建設された平城京	0	3	4	0	VI
	官人の勤務と生活	18	14	7	0	VI
	貴族の生活	9	4	8	0	VI
	都城のくらし	63	31	15	0	VI
	律令制下の村落	12	12	15	0	VI
	平城京	2	1	6	0	VI
	京内の官寺・薬師寺	2	2	7	0	VI
	頭塔と石仏	4	4	4	0	VI
	律令国家の範囲と列島の文化	0	0	2	0	エ
	地方の生産	39	24	9	0	VI
	郡家と地域支配	27	23	6	0	VI
	国府と交通	26	27	10	0	VI
	太宰府と多賀城	27	11	12	0	VI
	正倉院文書の世界					
	正倉院の宝庫	0	0	5	0	正
	東大寺の写経所	17	10	6	0	正
	律令国家の文書行政	3	6	4	0	正
	その他	1	0	2	0	VI
E	沖ノ島	249	167	23	4	
	沖ノ島					
	沖ノ島の祭祀遺跡	1	1	4	1	沖
	沖ノ島祭祀の始まり	52	45	5	0	沖
	模造品の供献	61	42	4	0	沖
	新しい祭具の出現	54	64	3	0	沖
	沖ノ島祭祀の終焉	81	15	3	0	沖
	その他	0	0	4	3	沖
	計	1484	984	352	18	

①テーマごとの専有床面積

第I期展示のテーマ別床面積は以下の通りである。

プロローグ	251 m ² (15 %)
A 日本文化のあけぼの	300 m ² (18 %)
B 稲と倭人	206 m ² (12 %)
C 前方後円墳の時代	365 m ² (22 %)
D 律令国家	425 m ² (26 %)
E 沖ノ島	114 m ² (7 %)
エピローグ	なし

②展示資料(表5-1-2)

全展示資料の内訳を見ると、複製が最も多く68%、次いで実物が29%、模型が3%、復元が1%、剥製が1%未満であった。展示資料の数は日本文化のあけぼのと前方後円墳の時代が最も多く、この2テーマで全体の54%を占めた。平均して1m²当たり0.9件の資料が展示されていた。

表5-1-2 展示資料の内訳(第I期)

	実物		復元		複製		模型		剥製		計		件/m ²
	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	
プロローグ	0	(0) 0%	0	(0) 0%	0	(0) 0%	0	(0) 0%	0	(0) 0%	0	(0) 0%	0.0
A 日本文化のあけぼの	239	(537) 59%	0	(0) 0%	158	(166) 39%	11	(11) 3%	0	(0) 0%	408	(714) 27%	1.4
B 稲と倭人	40	(55) 23%	0	(0) 0%	123	(123) 72%	8	(31) 5%	1	(1) 1%	172	(210) 12%	0.8
C 前方後円墳の時代	80	(88) 20%	0	(0) 0%	310	(395) 78%	7	(7) 2%	0	(0) 0%	397	(490) 27%	1.1
D 律令国家	64	(74) 25%	11	(11) 4%	174	(174) 67%	9	(9) 3%	0	(0) 0%	258	(268) 17%	0.6
E 沖ノ島	0	(0) 0%	0	(0) 0%	246	(404) 99%	3	(3) 1%	0	(0) 0%	249	(407) 17%	2.2
計	423	(754) 29%	11	(11) 1%	1011	(1262) 68%	38	(61) 3%	1	(1) 0%	1484	(2089)	0.9

③ネームプレート (表5-1-3)

ネームプレートは、タイプ別に集計したところ、C (資料名のみ) の55%、A (資料情報) の37%、B (資料情報と解説) の7%の順に多かった。D (資料名 + a) とS (木簡等の釈文) は少なかった。

最も多くネームプレートが置かれていたのは前方後円墳の時代で全体の24%、ほぼ同じく23%が日本文化のあけぼのであった。展示資料数の比と一致している。平均して1㎡当たり0.6枚のネームプレートが置かれていた。

表5-1-3 ネームプレートの内訳 (第I期)

	A		B 解説字数			C		D		S		計			枚/㎡
	枚	%	枚	字数	%	枚	%	枚	%	枚	%	枚	字数	%	
プロローグ	0	0%	0	(0)	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	(0)	0%	0.0
A 日本文化のあけぼの	117	52%	16	(1781)	7%	94	41%	0	0%	0	0%	227	(1781)	23%	0.8
B 稲と倭人	88	49%	13	(1106)	7%	77	43%	0	0%	0	0%	178	(1106)	18%	0.9
C 前方後円墳の時代	74	31%	5	(808)	2%	156	66%	0	0%	0	0%	235	(808)	24%	0.6
D 律令国家	73	41%	29	(2852)	16%	65	37%	0	0%	10	6%	177	(2852)	18%	0.4
E 沖ノ島	14	8%	3	(192)	2%	150	90%	0	0%	0	0%	167	(192)	17%	1.5
計	366	37%	66	(6739)	7%	542	55%	0	0%	10	1%	984	(6739)		0.6

④パネル (表5-1-4)

全テーマ中、律令国家において枚数・解説数ともに最多であった。

平均して1㎡当たり0.2枚のパネルが設置されていた。この値は各テーマの1㎡当たりの数(0.2~0.3枚)とほぼ同じであり、全体的にバランスのとれたパネル配置であったといえよう。

表5-1-4 解説パネルの設置状況 (第I期)

	枚数		解説		解説字数		解説数/枚	解説字数/枚	枚/㎡	字/㎡
	枚	%	枚	%	字数	%				
プロローグ	3	1%	0	0%	(0)	0%	0	0	0.0	0
A 日本文化のあけぼの	49	14%	52	23%	(8224)	22%	1.1	168	0.2	27
B 稲と倭人	55	16%	32	14%	(5449)	15%	0.6	99	0.3	26
C 前方後円墳の時代	91	26%	51	22%	(9699)	26%	0.6	107	0.2	27
D 律令国家	131	37%	74	32%	(10312)	28%	0.6	79	0.3	24
E 沖ノ島	23	7%	19	8%	(3478)	9%	0.8	151	0.2	31
計	352		228		(37162)		0.6	106	0.2	22

⑤デジタルコンテンツ (表5-1-5)

第I期展示では、律令国家を除く各テーマで映像コンテンツを提供していた。

表5-1-5 映像コンテンツ他の設置状況 (第I期)

	映像	展示装置	計	件/㎡
プロローグ	0	0	0	0.00
A 日本文化のあけぼの	7	0	7	0.02
B 稲と倭人	2	1	3	0.01
C 前方後円墳の時代	4	0	4	0.01
D 律令国家	0	0	0	0.00
E 沖ノ島	3	1	4	0.04
計	16	2	18	0.01

⑥小括

第I期展示の構成を、床面積当たりの数で示す(図1-2)。床面積と展示構成要素の比を照らし合わせると、1㎡当たりのパネルとデジタルコンテンツの数はほぼ一定であるのに対して、資料とネームプレートの数は異なることがわかった。律令国家と沖ノ島でその差が顕著であり、前者は最も広い専有面積にもかかわらず最少、後者は最も狭い専有面積にもかかわらず最多であった。

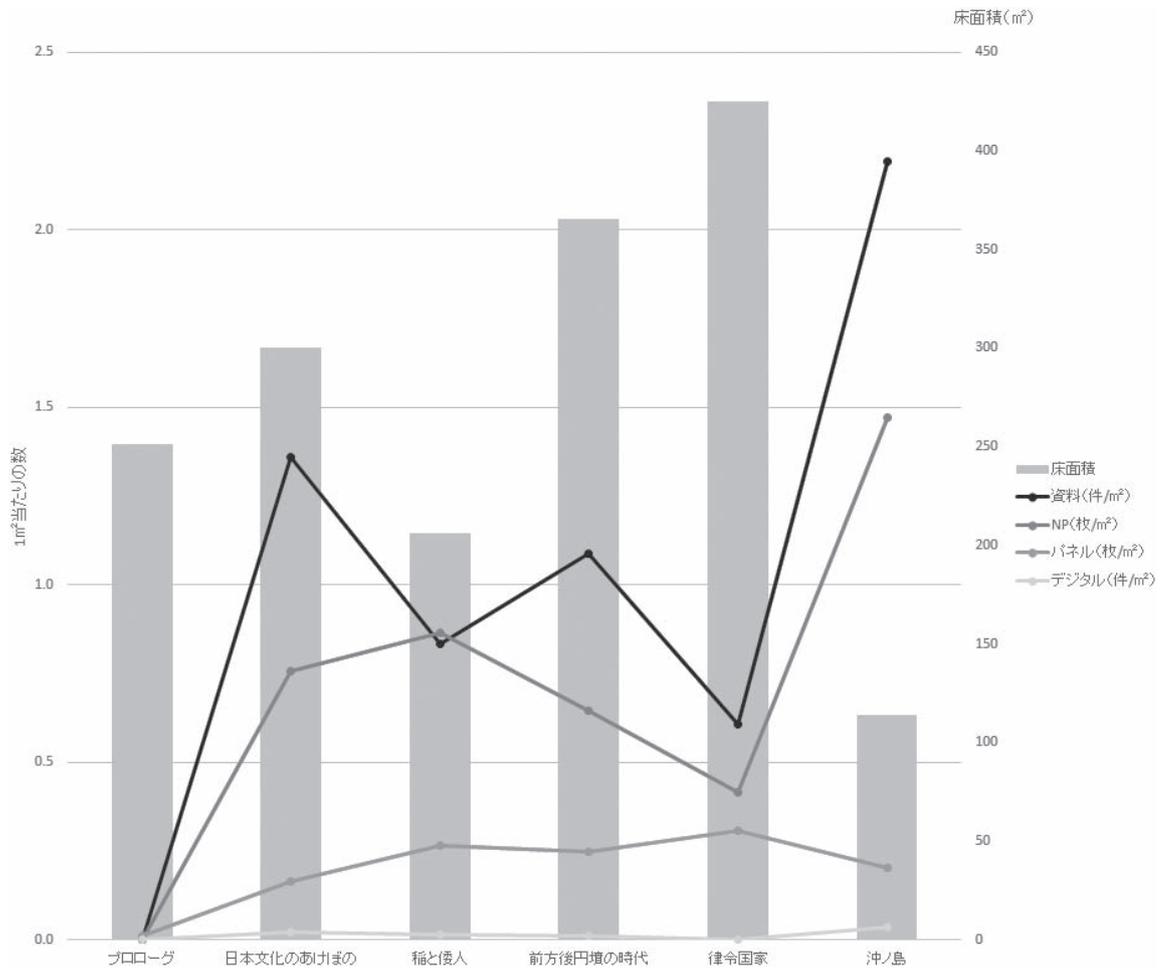


図 1-2 テーマ別展示構成 (第I期)

(2) 第Ⅱ期展示の構成

第Ⅱ期展示は2019年3月から公開されている。2019年末を基準に集計したテーマごとの数値は表5-2-1に、平面図は図2-1に示した。

① テーマごとの専有床面積

第Ⅱ期展示のテーマ別床面積は以下の通りである。

プロローグ	251㎡ (15%)
I 最終氷期を生きた人々	162㎡ (10%)
Ⅱ 多様な縄文列島	220㎡ (13%)
Ⅲ 水田稲作のはじまり	206㎡ (12%)
Ⅳ 倭の登場	122㎡ (7%)
V 倭の前方後円墳と東アジア	162㎡ (10%)
Ⅵ 律令国家と列島世界	346㎡ (21%)
副室1 沖ノ島	114㎡ (7%)
副室2 正倉院文書	59㎡ (4%)
エピローグ	20㎡ (1%)

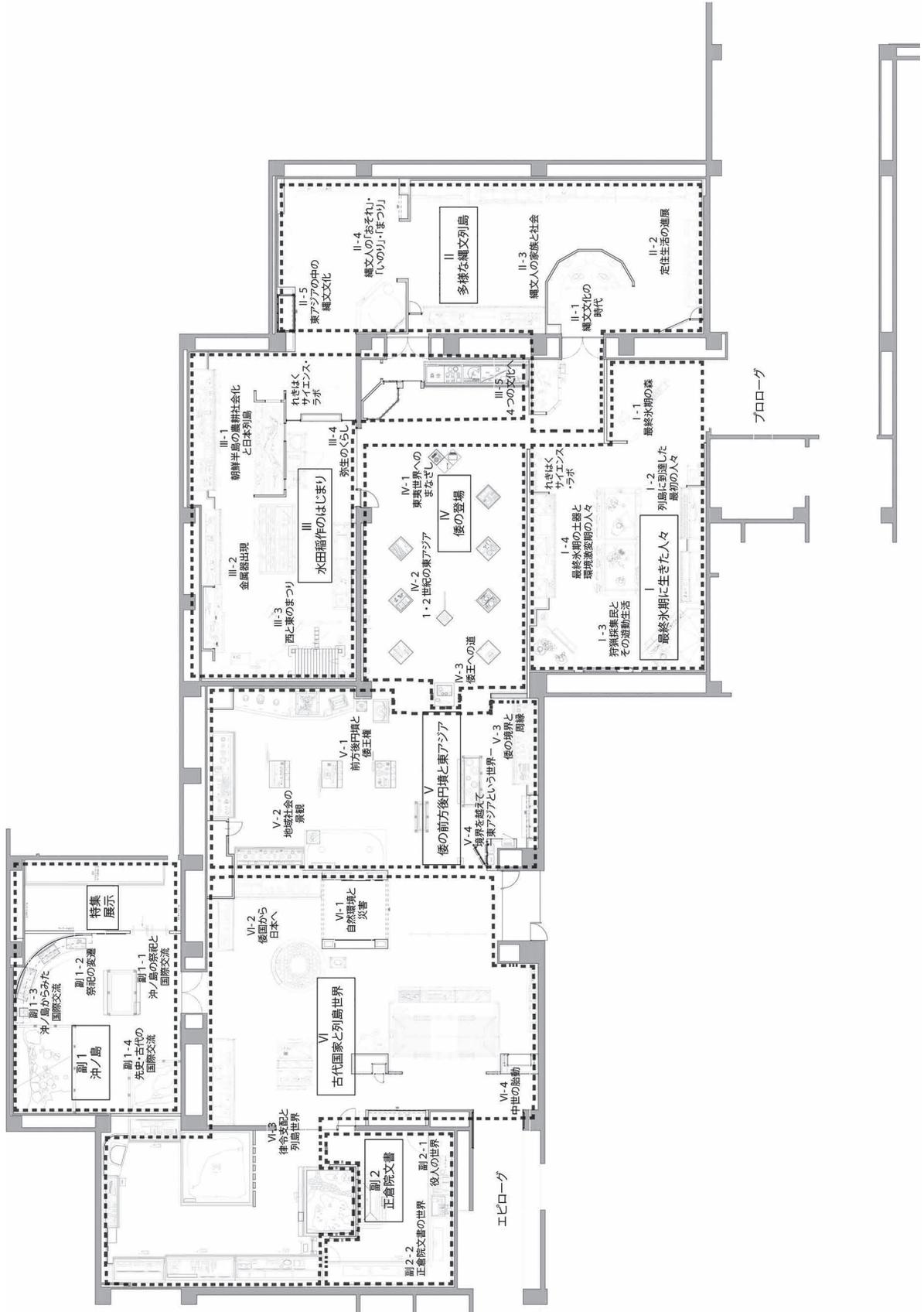


図 2-1 展示平面図 (第Ⅱ期)

表5-2-1 第Ⅱ期展示の構成

		資料(件)	N P	パネル	デジタル	第Ⅰ期との対応
第Ⅱ期	プロローグ	0	0	5	0	ブ
Ⅰ 最終水期に生きた人々		167	165	78	11	
	最終水期の森	7	8	16	2	A
	列島に到達した最初の人々	2	2	4	1	A
	人はいつ列島に渡ってきたのか？	0	0	1	0	C
	列島最初の人々が残したもの	13	17	2	0	C
	環状のキャンプに集う	4	6	1	0	C
	狩猟採集民とその遊動生活	10	9	7	2	C
	寒冷環境への適応	13	16	5	2	C
	石器を作る	5	6	1	0	C
	遊動生活と住居	15	15	1	0	C
	良質の石材を求めて	17	11	2	0	C
	大陸との関係	10	5	7	1	C
	動物の狩猟と食料	2	2	2	0	C
	旧石器時代の落とし穴	8	9	5	1	C
	植物質の食料の利用	12	12	4	0	C
	祈りとアクセサリー	10	11	3	0	C
	最終水期の土器と環境激変期の人々	6	8	1	1	C
	東アジアの土器の出現	1	1	1	0	C
	土器文化の急速な広がり	1	1	1	0	C
	定着的な生活の始まり	12	6	2	0	C
	狩猟具の変化と弓矢の登場	8	9	4	0	C
	南九州の集落と植物利用	11	11	8	1	A
	石偶と最古の土偶					
	れきはくサイエンス・ラボ					
Ⅱ 多様な縄文列島		188	224	81	32	
	トビックス	1	0	0	0	A
	縄文文化の時代	0	2	11	2	A
	縄文人登場	21	21	2	6	A
	縄文文化のはじまり・おわり・ひろがり	0	0	1	0	A
	定住生活の意義	5	5	1	2	A
	縄文文化の地域性	15	30	12	2	A
	民族誌からみた縄文文化	2	2	1	0	A
	定住生活の進展	20	33	8	2	A
	計画的な食料の調達	7	8	3	0	A
	高度な植物利用技術の発達	6	6	1	3	A
	高度な動物利用技術の発達	5	8	3	7	A
	計画的な土地利用	11	14	6	2	A
	交易・交流ネットワークの発達	7	5	6	0	A
	各地の集落と社会	17	17	2	3	A
	縄文人の家族と社会	0	0	2	0	A
	縄文人の一生	17	17	1	0	A
	縄文時代の家族像	0	0	2	0	A
	特別な人々の出現	17	17	1	0	A
	縄文人の「おそれ」・「いのり」・「まつり」	0	4	4	0	A
	災害への対応	4	0	1	0	A
	縄文人のけが・病気	3	3	5	2	A
	縄文人の死生観	35	39	5	0	A
	再生・循環の「いのり」と「まつり」	4	2	3	1	A
	縄文人の祖霊祭祀	4	2	3	1	A
	東アジアの中の縄文文化	8	8	3	0	A
	大陸との接触					
Ⅲ 水田稲作のはじまり		241	231	88	7	
	れきはくサイエンス・ラボ	0	0	2	2	B
	土器の圧痕－レプリカ法－	7	0	8	0	B
	朝鮮半島の農耕社会化と日本列島	47	49	11	0	B
	縄文晩期の西日本	11	13	3	0	B
	列島各地の初期水稲稲作	41	48	16	0	B
	金属器出現	6	7	5	0	B
	列島の鉄器文化	9	12	7	0	B
	武器と戦い	43	22	9	1	B
	西と東のまつり	16	14	2	0	B
	西のまつり					
	東のまつり					

	弥生のくらし	弥生のむら	9	10	7	2	B
		弥生の墓	8	10	3	0	B
		弥生の自画像	1	1	1	2	B
		弥生と縄文	2	2	7	0	B
	4つの文化へ	北緑、南緑の水田稲作文化	9	9	3	0	B
		北の文化、南の文化	32	30	3	0	B
		弥生文化とはなにか	0	0	1	0	B
IV 倭の登場			84	98	31	6	
	東夷世界へのまなざし	漢と倭	2	3	0	0	B
		魏志倭人伝の航海記録	0	0	0	1	B
	1・2世紀の東アジア	中国王朝の世界 —漢—	14	29	9	1	B
		朝鮮半島の世界 —楽浪と三韓—	15	14	2	1	C
		南北市籬の世界 —沓岐・対馬—	15	12	2	0	C
		金印かがやく世界 —北部九州—	12	11	5	1	C
		東西海廊の世界 —日本海—	10	14	2	1	C
		しまなみの世界 —瀬戸内海—	1	1	3	0	C
		平野ひろがる世界 —近畿—	3	2	3	0	C
		やまなみの世界 —東海・中部・関東—	4	4	2	1	C
	倭王への道	倭王への道	8	8	3	0	C
V 倭の前方後円墳と東アジア			134	179	99	4	
	前方後円墳と倭王権	前期の古墳	14	14	10	1	C
		中期の古墳	6	8	11	1	C
		後期の古墳	6	7	7	0	C
	地域社会の景観	王をめぐる風景	4	6	10	0	C
		集落での生活	31	44	12	0	C
		時代を変える新たな技術	19	30	6	1	C
	倭の境界と周縁	倭の北緑と北方世界	12	15	4	0	C
		倭の南緑と南方世界	25	27	2	0	C
		朝鮮半島の倭系古墳	8	11	5	0	C
	境界を越えて—東アジアという世界—	アジアの王権	5	5	25	0	C
		王権の天下観	4	12	7	1	C
VI 古代国家と列島世界			231	225	80	6	
	自然環境と災害	自然環境	2	1	4	4	D
		災害	1	1	2	1	D
	倭国から日本へ	仏教伝来と古墳の終末	25	22	6	0	D
		飛鳥と難波、藤原京	24	21	17	0	D
		「日本」建設	10	10	6	0	D
	律令支配と列島世界	都の明と暗	38	37	16	0	D
		古代の集落と役所	80	89	14	1	D
		古代国家の北と南	26	26	9	0	D
		東アジアのなかの列島世界	23	16	3	0	D
	中世の胎動	中世の胎動	2	2	3	0	D
副1 沖ノ島・特集展示			52	38	12	2	
	沖ノ島の祭祀と国際交流	小テーマなし	0	0	4	2	E
		祭祀の変遷	50	32	4	0	E
		沖ノ島からみた国際交流	2	6	2	0	E
		先史・古代の国際交流	0	0	2	0	E
副2 正倉院文書			30	15	17	5	
	役人の世界	写経生の生活	11	0	5	5	D
		役人の生活	14	11	4	0	D
	正倉院文書の世界	公文書の世界	4	2	5	0	D
		写経所文書の世界	1	2	3	0	D
エピソード			0	0	1	0	D
	計		1126	1175	492	73	

②展示資料(表5-1-5)

全展示資料の内訳を見ると、複製が最も多く56%、次いで実物が34%、模型が8%、復元が2%、剥製が1%未満であった。第I期の実物：複製比が7:3であったのに対し、およそ6:4となった。また、模型が増えた。

展示資料の数は、水田稲作のはじまりと律令国家と列島世界の2テーマで約40%を占めた。平均して1㎡当たり0.7件の資料が展示されていた。

表5-2-2 展示資料の内訳(第II期)

		実物		復元		複製		模型		剥製		計		(件数)	件/㎡					
プロローグ		0	(0)	0%	0	(0)	0%	0	(0)	0%	0	(0)	0%	0	(0)	0%	0.0			
A	最終水期に生きた人々	93	(272)	56%	0	(0)	0%	45	(108)	27%	29	(31)	17%	0	(0)	0%	167	(411)	15%	1.0
B	多様な縄文列島	61	(162)	32%	4	(4)	2%	111	(171)	59%	12	(29)	6%	0	(0)	0%	188	(366)	17%	0.9
C	水田稲作のはじまり	59	(130)	24%	2	(2)	1%	163	(202)	68%	14	(16)	6%	3	(3)	1%	241	(353)	21%	1.2
D	倭の登場	28	(36)	33%	21	(26)	25%	27	(70)	32%	8	(12)	10%	0	(0)	0%	84	(144)	7%	0.7
E	倭の前方後円墳と東アジア	81	(481)	60%	0	(0)	0%	49	(66)	37%	4	(4)	3%	0	(0)	0%	134	(551)	12%	0.8
VI	古代国家と列島世界	56	(106)	24%	0	(0)	0%	163	(201)	71%	12	(18)	5%	0	(0)	0%	231	(325)	20%	0.7
副室1	沖ノ島	1	(6)	2%	0	(0)	0%	44	(101)	85%	7	(16)	13%	0	(0)	0%	52	(123)	5%	0.5
副室2	正倉院	2	(2)	7%	0	(0)	0%	24	(28)	80%	4	(4)	13%	0	(0)	0%	30	(34)	3%	0.5
エピローグ		0	(0)	0%	0	(0)	0%	0	(0)	0%	0	(0)	0%	0	(0)	0%	0	(0)	0%	0.0
計		381	(1195)	34%	27	(32)	2%	626	(947)	56%	90	(130)	8%	3	(3)	0%	1127	(2307)		0.7

③ネームプレート(表5-2-3)

ネームプレートは、タイプ別に集計したところ、Aの50%、Cの44%、Bの6%の順に多かった。Dは少なく、木簡等の積文は第II期展示ではパネルで対応した。

第I期展示と同様に、ネームプレートの数の比は展示資料数の比とおおむね一致している。平均して1㎡当たり0.7枚のネームプレートが置かれていた。

表5-2-3 ネームプレートの内訳(第II期)

		A		B		解説字数		C		D		S		計		枚/㎡
プロローグ		0	0%	0	(0)	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	(0)	0%	0.0
A	最終水期に生きた人々	62	38%	33	(8499)	20%	70	42%	0	0%	0	0%	165	(8499)	18%	1.0
B	多様な縄文列島	176	79%	15	(3766)	7%	33	15%	0	0%	0	0%	224	(3766)	25%	1.0
C	水田稲作のはじまり	100	43%	7	(1352)	3%	124	54%	0	0%	0	0%	231	(1352)	26%	1.1
D	倭の登場	47	48%	2	(2852)	2%	49	50%	0	0%	0	0%	98	(2852)	11%	0.8
E	倭の前方後円墳と東アジア	61	34%	0	(0)	0%	118	66%	0	0%	0	0%	179	(0)	20%	1.1
VI	古代国家と列島世界	76	34%	81	(15580)	36%	68	30%	0	0%	0	0%	225	(15580)	25%	0.7
副室1	沖ノ島	7	18%	2	(410)	5%	0	0%	29	76%	0	0%	38	(410)	4%	0.3
副室2	正倉院	15	100%	0	(0)	0%	0	0%	0	0%	0	0%	15	(0)	2%	0.3
エピローグ		0	0%	0	(192)	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	(192)	0%	0.0
計		446	50%	57	(16469)	6%	394	44%	0	0%	0	0%	897	(16469)		0.7

④パネル(表5-2-4)

ほとんどのテーマにおいて枚数・解説数・解説字数の比が同程度であるが、倭の登場と正倉院では枚数に比べて解説数・解説字数が倍近くあり、その逆に、倭の前方後円墳と東アジアでは解説数・解説字数に比べて枚数が半分程度であった。

第Ⅰ期では1㎡当たりのパネル数が0.2～0.3枚であったが、第Ⅱ期では0.1～0.6枚とテーマによってばらつきが出た。また、1㎡当たりの字数も22字から34字に増えた。パネル1枚当たりの解説に関しては、全体で1枚当たり1.1項目の解説(113字)が展示されていることがわかった。第Ⅰ期の0.6項目(106字)より増えている。

表5-2-4 解説パネルの設置状況(第Ⅱ期)

		枚数		解説		解説字数		解説数/枚	解説字数/枚	枚/㎡	字/㎡
プロローグ		5	1%	2	0%	(506)	0%	0.4	101	0.0	2
A	最終氷期に生きた人々	78	16%	84	15%	(8642)	16%	1.1	111	0.5	53
B	多様な縄文列島	81	16%	89	16%	(9950)	18%	1.1	123	0.4	45
C	水田稲作のはじまり	88	18%	94	17%	(9203)	17%	1.1	105	0.4	45
D	倭の登場	31	6%	80	14%	(7062)	13%	2.6	228	0.3	58
E	倭の前方後円墳と東アジア	99	20%	63	11%	(6538)	12%	0.6	66	0.6	40
VI	古代国家と列島世界	80	16%	86	15%	(8999)	16%	1.1	112	0.2	26
副室1	沖ノ島	12	2%	13	2%	(1971)	4%	1.1	164	0.1	17
副室2	正倉院	17	3%	44	8%	(2841)	5%	2.6	167	0.3	49
エピローグ		1	0%	0	0%	(0)	0%	0.0	0	0.1	0
計		492		555		(55712)		1.1	113	0.3	34

⑤デジタルコンテンツ(表5-2-5)

第Ⅱ期展示では、第Ⅰ期展示で設置していた展示装置を撤去し、映像と音響のコンテンツのみを提供している。

表5-2-5 デジタルコンテンツの設置状況(第Ⅱ期)

		映像	音響	計	件/㎡
プロローグ		0	0	0	0.00
A	最終氷期に生きた人々	11	0	11	0.07
B	多様な縄文列島	32	0	32	0.15
C	水田稲作のはじまり	7	0	7	0.03
D	倭の登場	6	0	6	0.05
E	倭の前方後円墳と東アジア	4	0	4	0.02
VI	古代国家と列島世界	6	0	6	0.02
副室1	沖ノ島	1	1	2	0.02
副室2	正倉院	5	0	5	0.09
エピローグ		0	0	0	0.00
計		72	1	73	0.04

⑥小括

第Ⅱ期展示の構成を、床面積当たりの数で示す。(図2-2) 1㎡当たりの数で比べると、デジタルコンテンツはおおむね一律だが、その他は専有面積の広さにかかわらず各テーマでばらついている。

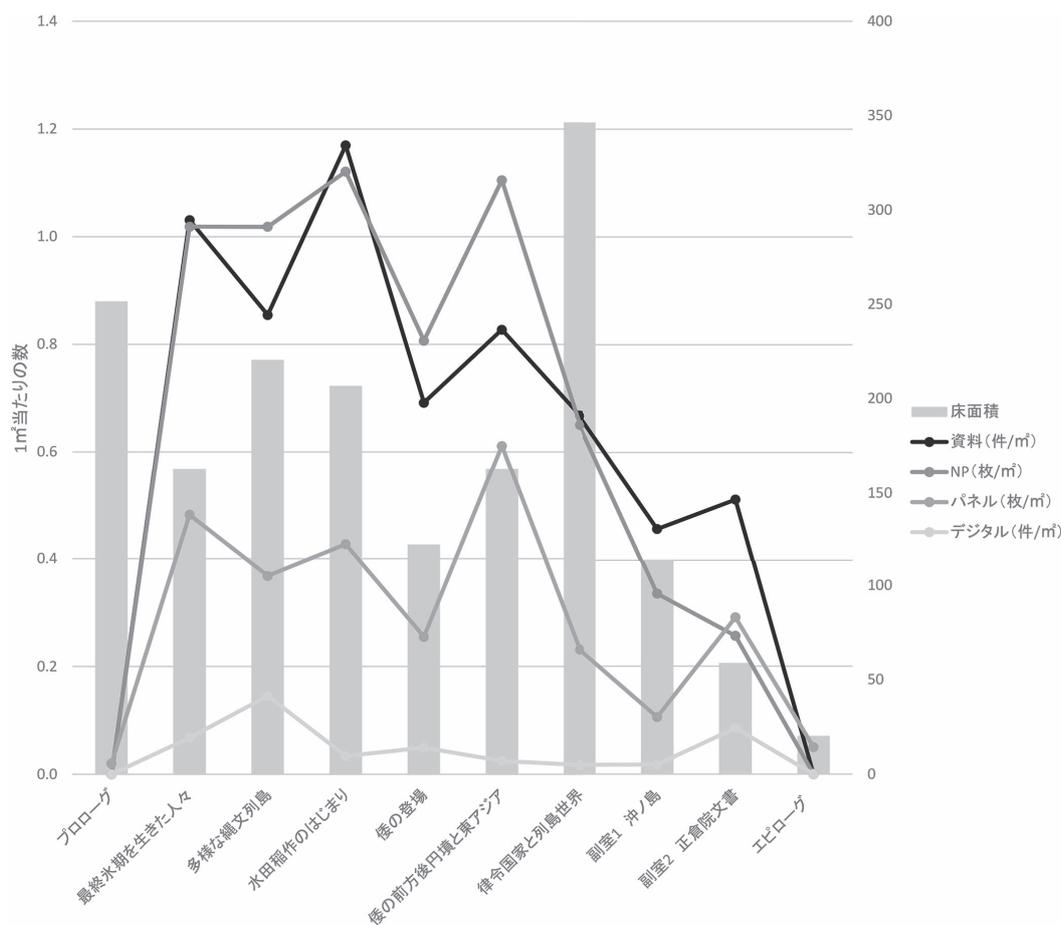


図2-2 テーマ別展示構成 (第Ⅱ期)

(3) 両期の比較 (専有床面積当たり)

ここでは、両期の展示構成要素を比較し、どのように変わったのかを検討してみたい。時代でなく床面積で比べる理由は、第Ⅱ期展示へのリニューアルに当たり展示構成を造り変えたことと、第Ⅱ期展示では移行期について言及する場面が増えたため、年代観が異なる内容を単純に比べることは適当でないと考えたからである。展示構成の改変について、以下に大きく変わった点を一部挙げておく。

- ・稲と倭人で扱っていた弥生時代～古墳時代の移行期は、第Ⅱ期展示では倭の登場として独立して扱うようになった。

- ・正倉院文書は、第Ⅰ期展示では律令国家の一部であったが、第Ⅱ期展示では副室2として独立して扱うようになった。
- ・第Ⅱ期展示のエピローグは、第Ⅰ期では律令国家の一部として使われており、続縄文、貝塚後期文化など南北の文化を紹介していた。

床面積当たりの比較に当たり、第Ⅱ期展示の小テーマ単位で第Ⅰ期展示との対応を調べた(表5-2-1)。例えば、第Ⅰ期の「日本文化のあけぼの」は、第Ⅱ期の「最終氷期に生きた人々」の一部と「多様な縄文列島」全体を合わせたものと比較している。この対応関係をもとに、同じ展示空間においてどのように資料やパネル等を配置したかを調べるため、両期展示の集計を行った。表5-3にその結果を示している。項目ごとに、左の欄が第Ⅱ期、右側の網掛けした欄が第Ⅰ期の値を、パーセンテージは第Ⅰ期に対する増減の比率を表している。

表 5-3 両期展示の比較

ブ	資料(件)				パネル				解説数				解説文字数							
	0	0.0	0	0.0	5	0.0	3	0.0	2	0.0	0	0.0	506	2	0	0				
A	204	0.7	408	1.4	50%	109	0.4	49	0.2	222%	118	0.4	52	0.2	227%	13059	44	8224	27	159%
B	257	1.2	172	0.8	149%	97	0.5	55	0.3	176%	107	0.5	32	0.2	334%	10436	51	5449	26	192%
C	344	0.9	397	1.1	87%	171	0.5	91	0.2	188%	185	0.5	51	0.1	363%	17900	49	9699	27	185%
D	264	0.6	258	0.6	102%	98	0.2	131	0.3	75%	130	0.3	74	0.2	176%	11840	28	10312	24	115%
E	52	0.5	249	2.2	21%	12	0.1	23	0.2	52%	13	0.1	19	0.2	68%	1971	17	3478	31	57%
計	1121	0.7	1484	0.9	76%	492	0.3	352	0.2	140%	555	0.3	228	0.1	243%	55712	34	37162	22	150%
	NP				NP 解説字数				デジタル											
ブ	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0	0.00								
A	245	0.8	227	0.8	108%	6003	20	1781	6	337%	36	0.12	7	0.02	514%					
B	263	1.3	178	0.9	148%	1352	7	1106	5	122%	9	0.04	3	0.01	300%					
C	389	1.1	235	0.6	166%	6620	18	808	2	819%	15	0.04	4	0.01	375%					
D	240	0.6	177	0.4	136%	15580	37	2852	7	546%	11	0.03	0	0.00	-					
E	38	0.3	167	1.5	23%	410	4	192	2	214%	2	0.02	4	0.04	50%					
計	1175	0.7	984	0.6	119%	29965	18	6739	4	445%	73	0.04	18	0.01	406%					

展示資料数の増減はテーマによってばらつきがあるが、それ以外のパネルや解説、デジタルコンテンツはE「律令国家」を除いて軒並み増加していることがわかる。解説は、パネル解説の項目数が平均して約2.5倍、字数が1.5倍、ネームプレートの解説字数は4.5倍となった。この数字だけ見れば、リニューアルによってさらに展示解説が充実したといえるであろうが、第Ⅱ期展示では子ども向け解説を用意しておらず、その充実が来館者目線に立ったものといえるかどうかは疑問が残る。集計対象の外では、オーディオガイドが未整備である一方で、新たに点字パネル(大テーマ解説文のみ)を取り入れている。

集計結果を概観すると、第Ⅱ期では各項目でのテーマによる差がより大きくなったことが読み取れる。この結果を、第Ⅱ期展示が一部の展示評価で「部屋ごとの独自色が濃い」「微妙なばらばら感は否めない」と指摘された事実と結びつけるのは安直にすぎるかもしれないが、展示構成要素の数や比率を調べることでこうした傾向を導けるとすれば、展示の見やすさを検討するための“見やすさ指数”のような指標として活用することも可能ではないだろうか。

表6 1 室開室に関わる報道等一覧

年 月 日	媒体		タイトル	I	II	III	IV	V	VI	正倉院 沖ノ島
2019 2 7		Web	美術手帖		○	○		○	○	○
2019 2 7		Web	FASHION PRESS							
2019 2 17	広告	新聞	朝日新聞							
2019 2 6	広告	雑誌	週刊朝日ムック 歴史道 Vol.2							
2019 2 6	広告	雑誌	歴史人 2019年3月 No.99							
2019 3 5	広告	新聞	朝日新聞							
2019 3 5	広告	その他	メトロガイド							
2019 3 6	広告	雑誌	歴史群像 2019年4月 No.154							
2019 3 6	広告	新聞	産経新聞							
2019 3 6	広告	新聞	スポーツ報知							
2019 3 12	広告	新聞	毎日新聞 夕刊							
2019 3 14		Web	Internet Museum							
2019 3 19		Web	NHK							
2019 3 19	広告	新聞	東京新聞							
2019 3 19		新聞	朝日新聞							
2019 3 22	広告	新聞	毎日新聞 夕刊							
2019 3 25		Web	tenki.jp							
2019 3 25		ラジオ	bayfm							
2019 3 27	広告	新聞	読売新聞 夕刊							
2019 3 29		新聞	日本経済新聞							
2019 4 1		新聞	千葉日報							
2019 4 5		その他	国立歴史民俗博物館 友の会 ニュース							
2019 4 5		その他	ちいき新聞千葉南版 VOL.947							
2019 4 5		その他	ちいき新聞成田版 VOL.1076							
2019 4 5		その他	ちいき新聞佐倉東・酒々井版 VOL.1076							
2019 4 5		その他	ちいき新聞佐倉西版 VOL.1961							
2019 4 10		新聞	毎日新聞							
2019 4 11		新聞	朝日新聞							
2019 4 13		新聞	船橋よみうり 第1235号							
2019 4 22		新聞	毎日新聞 夕刊		○	○	○	○		
2019 4 24		テレビ	ケーブルネット 296 地デジ 11ch							
2019 4 28		新聞	朝日新聞					○	○	
2019 4	広告	その他	歴史図書目録刊行会							

年 月 日	媒体		タイトル	I	II	III	IV	V	VI	正倉院	沖ノ島
2019 5 2	Web	産経新聞	ネコの渡来は弥生時代だった 歴博展示室が36年ぶり刷新								
2019 5 12	テレビ	NHK Eテレ	総合展示第1展示室 先史・古代展示リニューアルオープン								
2019 5 13	新聞	千葉日報	佐倉・歴博 「先史・古代」大幅刷新 旧石器時代コーナー新設 各時代の移行期に着目								
2019 5 19	新聞	しんぶん赤旗 日曜版	古代日本へひとつ飛び 国立歴史民俗博物館リニューアル	○	○	○					
2019 5 23	新聞	朝日新聞	歴博リニューアル 1 最終氷期に生きた人々 等身大模型でよみがえる旧石器時代								
2019 6 3	新聞	産経新聞	ネコの渡来は弥生時代? 研究成果を反映 歴博展示室 36年ぶり刷新								
2019 6 4	新聞	毎日新聞	歴博 展示リニューアル 全く新しい「先史・古代」	○	○	○					
2019 6 7	新聞	毎日新聞	国立歴史民俗博物館(千葉県佐倉市) 最新知見 展示に反映								
2019 6 11	新聞	西日本新聞	歴博リニューアル 移行期の表現にこだわった「集大成」								
2019 6 11	ラジオ	NHK ラジオ第2	「縄文時代研究の最先端を探る」(11)【最新の縄文時代展示～歴博第1展示室リニューアルの裏側～その1】								
2019 6 13	新聞	朝日新聞	歴博リニューアル 2 多様な縄文列島 縄文人の死生観や一生 考える								
2019 7 20	雑誌	総合誌歴博 No.215	展示批評 リニューアルされた歴博総合展示第1室① 池谷信之								
2019 8 1	雑誌	染織情報アルファ 2019年8月	国立歴史民俗博物館「先史・古代」コーナーに展示された縄文人像に着装する衣装制作の記録 大橋マリ			○					
2019 8 1	新聞	朝日新聞	歴博リニューアル 3 水田稲作のはじまり 拡散の流れ、日本列島の枠超え説明			○					
2019 8 12	新聞	日本経済新聞	弥生の時代観に見直し迫る 多様な生活 豊かな交流			○					
2019 8 16	新聞	朝日新聞	歴博リニューアル 4 倭の登場 日本海沿岸 東西結ぶ交通の要				○				
2019 9 20	雑誌	総合誌歴博 No.216	展示批評 リニューアルされた歴博総合展示第1室② 辻田淳一郎								
2019 9 26	新聞	朝日新聞	歴博リニューアル 5 倭の前方後円墳と東アジア 水のまつり 王がつかさどる					○			
2019 9 30	雑誌	古代文化 Vol.71	国立歴史民俗博物館第1展示室(先史・古代)のリニューアル								
2019 10 1	雑誌	教育旅行 2019年10月号	千葉県佐倉市 国立歴史民俗博物館 最新の研究を展示に	○	○	○					
2019 10 17	新聞	朝日新聞	歴博リニューアル 6 古代国家と列島世界 飛鳥・藤原京の発掘成果を展示						○		
2019 10 23	雑誌	日本考古学 No.49	博物館展示と考古学研究—国立歴史民俗博物館第1室(先史・古代)のリニューアルについて— 谷川章雄	○	○	○	○	○	○	○	○
2019 10 25	その他	千葉県保険医新聞	先史・古代展示室がリニューアル								
2019 12 19	新聞	朝日新聞	歴博リニューアル 7 沖ノ島 いにしへの交流 思いはせる場								○
2020 1 30	雑誌	総合誌歴博 No.218	展示批評 リニューアルされた歴博総合展示第1室③ 吉田歆						○	○	○

表7 展示批評・来館コメント一覧

該当 テーマ	該当箇所		内容		対応		
	展示 /設備	詳細	事象	対策案	内容	理由	
全体	設備	障害者対応	視覚障害者が自力で点字板へ通りつけない 展示台が高く、資料が見つづらい	点字板への案内表示が必要	設置予定 予定なし	予算	
		来館者対応	導線がわかりづらい 資料一つに対し、「さわるな!」マークが多い 写真が撮りづらい (演具が邪魔になる)	矢印・足跡マークなどの導線手段がほしい	設置予定 (フロアマップ設置) 対応済み 予定なし	対応不要 と判断	
	展示	パネル	説明パネルの情報量が多すぎる。1枚当たりの 文字量が少なくても、枚数が多い。パネルで疲 れてしまう。				
		展示内容	北と南の取扱いが時代により全く無い 館としての意図か 展示室全体に統一性がない テーマ間の連携がとれていない。 第2展示室への繋がりもない。			予定なし	対応不要 と判断
I	展示	パネル	人類進化の流れ：初期人類の切抜きと進化の流 れの図との関連がわかりづらい ナウマンゾウ模型の背景：下草とコケが不連続 大陸との関係：①～⑥、A、Bのマークが地図 上に落ちていない	切抜きに図と同じ色を配色してほしい	予定なし 取替え予定 改訂予定	対応不要 と判断	
		展示内容	ノビルとハシバミ出現の時期は他の植物とは異 なる 旧石器ねつ造事件についての説明がない 旧展示では前・中期旧石器の成果を積極的に展 示していた 沖縄の旧石器に関する情報が無い		展示替え予定 問合せ中 予定なし	対応不要 と判断	
	展示	演示	奥の資料が見つづらい (奥行きのある展示ケース) 展示台が高く、資料が見つづらい 二重にガラスが巡り見つづらい (ガラスケース外側にガラスの仕切り)	資料を手前に寄せてほしい	予定なし 変更予定 (NPを斜台へ) 予定なし	対応不要 と判断 予算	
		展示内容	縄文人登場：入口の男女復元模型が旧石器時 代のよりも時代が遡ったように感じる 北と南に触れられていない 縄文の食卓：どの時期のどの地域? 現代の銀ジャケ、ナガイモ、摩り石 イノシシ・シカ肉、どちらかわからない	アワビ・コイ・マダイ・ホタテ：一緒に置かない 東北以南：ハイガイ、東北：マグロ ヤマイモ→ジネンジョ・ムカゴ 肉：NPを追加	問合せ中 問合せ中 展示替え予定		
III	展示	ガイダンス 映像	文言：農耕の起源は中近東ではなく朝鮮半島と 読めてしまう		予定なし	対応不要 と判断	
		パネル	縄文・弥生女性模型：パネル・映像コンテンツ の内容が重複(模型のメイキング)	展示目的の解説がほしい (縄文・弥生人の相貌の違いなど)	予定なし	対応不要 と判断	
	展示内容	縄文・弥生女性模型：怖い (薄暗いところにポーッと佇む)	ライトの当て方を改善してほしい	対応済み			
		シルバー製コクゾウムシが巨大 イエネコ：弥生全体に一般化していい? ノラネコは中世以降しかいないのでは 貝塚後期文化の展示資料が少ない 「沖縄の人が見たら悲しむと思う」	何倍なのかを示してほしい 展示資料を増やしてほしい	予定なし 問合せ中 予定なし	対応不要 と判断		
IV	展示	展示内容	北と南の取扱いがない		予定なし	対応不要 と判断	
V	展示	展示内容	沖縄の展示資料が少ない 地元以外でこの遺跡を紹介する唯一の博物館 だったので、黒井峯模型が新展示からなくなっ てしまい残念 七支刀の裏側の文字がみえない 記録鉄剣の文字がみづらい	展示資料を増やしてほしい 展示方法を変えてほしい	予定なし 問合せ中	対応不要 と判断	
		パネル	請暇解：内容がわからない	解説文がほしい	予定なし	対応不要 と判断	
VI	展示	展示内容	北と南の取扱いがない 羅城門模型のインコが現代の移入種		展示替え予定 問合せ中		
		タッチパネル 映像	文書の内容がわからない	ジャンル分けや解説文がほしい	予定なし	対応不要 と判断	
正	展示	パネル	祭りの様子がわからない	復元画などがほしい	予定なし	対応不要 と判断	
沖	展示	パネル	視きケース3の資料が複製か本物かわからない	NPを追加：海外とのつながりをしめす奉獻品 (4-9世紀)複製品	NP追加予定		
		ネーム プレート					

歴博は自らの展示を研究展示と標榜する博物館であり、その責務として研究成果を展示にして公開してきた。今後、展示それ自体をも研究対象とし、歴博が行う歴史や民俗の研究の成果をより来館者に伝えられる展示とはどんなものか、どのような手法でそれが可能かを模索してその成果を周知することも、“研究展示”を活用する手段の一つなのではないかと考える。その実践への足掛かりとして、展示制作者の視点から行う展示評価の例を微力ながら示すことができていることを願う。

おわりに

決して無事には言えず充分に有事であったものの、第1展示室は全面的にリニューアルを終え、予定通り2019年3月19日の開室に至った。リニューアルの工程は予算の都合により何度も変更され、開始当初に予定より1年遅らせ、2018年度末の開室に決定した。その後、事業途中にも予算削減の影響を受け施工を2期に分け、先送り分となった展示室の一部が未完成のまま開室することに変更された。更にその後、先送り分を繰り上げて先行分と同時に全面開室することへ再度変更され、その度にリニューアル計画は一時停止し、処理量と速度を変えながら進められてきた。

また、これまでに何度か指摘してきたように、展示設計と施工の担当業者は同一であってはならないという制約の下、内容の重複する打ち合わせを繰り返し、什器や展示台を始め、解説グラフィックパネルなどの設計の見直しが大量に発生した。加えて、館と業者間の情報共有が著しく遅れて必要以上の時間と労力と経費が費やされ、全ての工程が遅滞する事態となった。

この遅れを解消するために、また、追加変更の情報共有を円滑に行うことを目的として、各展示構成のデータベースが構築・運用された。結果として煩雑な作業の大部分が軽減され、収蔵から演示に至る資料の流れと詳細、使用画像の使用・保管状況などの把握が格段に容易となった。時間と労力を要す展示構成物の管理が、これまでの場当たりのリスト作成から変わったことにより、各所で発生していた遅滞を大幅に解消することができた。リニューアル事業の開始と同時に構築することができたならば、展示設計段階や第I期展示の撤収なども迅速に進められたはずである。今後、リニューアルのノウハウが蓄積され、次期展示室でも活用されるよう期待したい。

この他に、設計内容自体の変更も何度か行われており、展示設計書の館内縦覧を実施して、リニューアル委員以外の意見をも反映させてきた。とりわけジェンダーに関する共同研究チームからは、展示資料そのものから解説グラフィックパネルの文章にわたって意見が出された。当初の反応は様々であったものの、内容についてはその都度点検と検討がなされてきており、ミスリードを防ぐために開室直前まで訂正に続く訂正を重ねた箇所もあった。傍らにいて大いに刺激を受けることができ、また、大変勉強になった。

引用文献

- 渋谷綾子. 2014. 国立歴史民俗博物館総合展示第1室（原始・古代）の新構築事業—2012年度活動報告. 国立歴史民俗博物館研究報告 186：277-293.
- 渋谷綾子・大塚宜昭 2015. 国立歴史民俗博物館総合展示第1室（原始・古代）の新構築事業—2013年度活動報告—. 国立歴史民俗博物館研究報告 201：25-40.
- 渋谷綾子・上奈穂美 2016. 国立歴史民俗博物館総合展示第1室（原始・古代）の新構築事業—2014年度活動報告—. 国立歴史民俗博物館研究報告 201：25-40.
- 渋谷綾子・上奈穂美 2017. 国立歴史民俗博物館総合展示第1室（原始・古代）の新構築事業—2015年度活動報告—. 国立歴史民俗博物館研究報告 206：115-125.
- 上奈穂美・横田あゆみ 2018. 国立歴史民俗博物館総合展示第1室（原始・古代）の新構築事業—2016年度活動報告—. 国立歴史民俗博物館研究報告 209：83-94.
- 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館 2004. 国立歴史民俗博物館総合展示リニューアル基本計画. 59 pp. 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館. 佐倉市.

横田あゆみ（国立歴史民俗博物館・資料整理等補助員）

上 奈穂美（国立歴史民俗博物館・技術補佐員）

（2020年4月9日受付，2020年7月9日審査終了）



写真1 開室の告知



写真2 開室直後の展示室の様子(1)



写真3 オープン記念式典



写真4 展示解説の様子



写真5 開室直後のエントランスホール



写真6 開室直後の展示室の様子(2)



写真7 テーマⅠ 最終氷期に生きた人々



写真8 テーマⅡ 多様な縄文列島



写真9 テーマⅢ 水田稲作のはじまり



写真10 テーマⅣ 倭の登場



写真11 テーマⅤ 倭の前方後円墳と東アジア



写真12 テーマⅥ 古代国家と列島世界



写真 13 副室 1 沖ノ島・特集展示



写真 14 副室 2 正倉院文書



写真 15 エピローグ



写真 16 更新世オオカミ模型の制作の様子